

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2016.10.29)

河口無線で開催された太陽インターナショナル扱いのアダムのスピーカー **COLUMN-MK3** の試聴会に行ってきました。スピーカーだけでなく dCS のプレイヤー **ROSSINI-PLAYER** と dCS のワードクロックジェネレーター **ROSSINI-CLOCK** にも興味がありました。

日時：10月29日 PM1:15~PM3:00

会場：3F ハイファイディリティ試聴室

講師：オーディオ評論家傳信幸氏

<使用機材>



アダム スピーカーシステム COLUMN-MK3 ¥1,188,000 (ペア)



ジェフロランド プリアンプ CORUS-PSU ¥3,596,400



ジェフロランド パワーアンプ model-725S2 ¥4,989,600



DCS CD プレーヤー ROSSINI-PLAYER ¥3,877,200



DCS ワードクロックジェネレーター ROSSINI-CLOCK ¥1,112,400



当日のセッティング

< 試聴の経過 >

最初に太陽インターナショナルの担当者から試聴システムの紹介があり、傳氏にバトンが渡されて COLUMN-MK3 の解説を織り込みながら試聴が始まりました。

COLUMN-MK3の特徴は高域とミッドレンジにハイルドライバーを使用しており、ウーファーもハイルドライバーに見合うレスポンスの速さを得るために、剛性の強い素材を使用しているとのことでした。

スピーカーのツイーター開発の流れとして、一方は速度の速いベリリウムとかダイヤモンドを採用する流れと、もう一方は軽くて反応の早いリボンとかハイルドライバーを採用する流れがあり、エラックやアダムに加えて、ピエガやモニターオーディオもハイルドライバーを採用してきているとのことでした。

また、このハイルドライバーの開発者は、最初に Dr.ハイルを訪問して許可を得て開発したが、投資ができず、エラックで実現し、ついで自社ブランドを立ち上げ、アビロードスタジオやウイーンフィルのモニタールームで採用されたことから有名になったと言ったような経過の紹介もありました。

試聴は、ベースとボーカルのデュオ、ギターソロ、ピアノトリオにサクスを加えたジャズなどがかけられましたが、非常に明晰で、ディテールの再現がよく、かつスムーズな音がしていました。

その後、森麻季のヘンデルのアリアがかかりましたが、バックのバロックアンサンブルとともに録音の場の再現が手に取るような印象でした。その後の塚越慎子のマリンバも音の揺らぎがリアルでした。

ここで次の予定があつて中座しましたが、試聴が始まる前にかかっていた、ワルキューレ、木管アンサンブル、弦楽 Q など、クラシック系統の音源が、滑らかで聴きやすい音がしており、ミッドレンジにまでハイルドライバーを採用し、ウーファーとの繋がりも配慮されたスピーカーであるという印象を持ちました。クロックを入れたプレーヤーやアンプもこのスピーカーの良さを引き出しているように感じました。

以上